北　国　の　春

長い長い冬が終って、北海道にも春がやって来た。

過ぎ去りし冬には、耕地防風林の吹雪防止に関する調査を、道東の標茶町や中標津町で、鼻水を垂らしながらやったこともあった。カラマツ林帯は、落葉樹林帯であるが、防風効果は大きいし、そのために、却って、吹雪を林内に溜めてしまい、大きな雪丘が出来て、いちじるしい雪害が生じていた。

滝野公園では、雪洞をつくり、スキー板の梁にダンボール紙の断熱をして、シートの屋根を張って、耐寒キャンプを経験した。雪のテーブルに夕食を楽しみ、雪の壁にスライドを映した。翌日はつよい冷え込みであった。眩しい太陽の下で、森の中を歩くスキーで散歩した。滝の水音は、もう、春のようであった。

待ち遠しかった北国の春は、花を咲かせ、芽吹きを促し、あっという間に過ぎ去ってしまった。

（斎藤新一郎）

みずばしょう